

「要員マネジメント」による人員削減で

労働強化と府民サービスの低下

2010年度の職員定数配置計画が府職労に対して3月1日に示され、この間、各支部・分会で各部署と協議を行ってきました。当局提案は部局削減目標328人を上回る約380人の削減提案であり、知事重点配置で1000人を配置、純減で約280人削減の内容でした。この間の各支部等と部局との協議において改めて当局提案の不当性があきらかになりました。

不当性明らかな 2010年度人員配置

健康福祉支部と部との交渉では公衆衛生研究所において定数上措置されているものの、研究員を採用しないため4月1日から8人の欠員が生じることが判明しています。府税支部では当局は市場化テストによる75人削減を提案し協議しましたが、府職労の指摘により

当局説明の根拠が誤りであったことが発覚し、当局はそれを認めたと関わらず、業務を切り捨て、人員定数の変更はしないと強弁しました。どの部局にも共通して現れているのが、職場・支部から「これでは業務はまわらない」と指摘しているにもかかわらず「要員マネジメント」で対応すると強弁していることです。これでは今まで当局が言い続けてきた「業務量に見合った人員配置」ではなく「人員配置にみあった業務」へととなり大きな問題です。

職場では府民のためにい仕事かしたいと思っていながらも関わらず、それをするために人員が不足するため恒常的残業になるしかありません。あるいはマネジメントにより業務を切り捨てるしかない状況になるのではないのでしょうか。府職労は引き続き人員定数の当局の不当性を追及するとともに、各職場から府民のための業務の切り捨てを許さず、かつ恒常的残業の解消で働きやすく、働きつづけられる職場・誰でも自由に物が言える職場作りを目指します。

シリーズ ④ 特勤

環境農林部水産部の循環型社会推進室、環境管理室では、煤煙、粉じん、汚水の排出に対する規制指導や廃棄物処理の基準を遵守させるために工場などの現場指導を行います。

現場の指導は、例えば、野焼きの苦情を受けて煙の立ち上ることで、の指導、廃PCB漏れのドラム缶の保管状況の確認、鉛・六価クロムを扱う工場や下水処理場の処理工程の検査と汚水処理後の排水の採水、焼却炉



現場の立入りで アスベスト、ダイオキシンなどの有害物質に曝露

での廃棄物の投入状況、燃焼温度などの点検、廃棄物の有害物含有検査のためのサンプリングなどを日常的に行っています。健康被害の原因を抑制するためにトルエンやキシレンなど揮発性有機化合物(VOC)を扱う

塗装工場やガソリンスタンドへの立入りもしています。現場への立ち入りでは、ダイオキシンや鉛などの有害物質、大腸菌を吸い込んだり、髪の毛や皮膚に付着するなど曝露してしまいます。

また、平成17年以降はアスベスト対策が再浮上し、アスベストの解体現場への立入り、養生検査、測定が増えました。アスベストは曝露後、30年〜40年のうちに中皮種や

肺癌などを発症し苦しむ死亡する事例が社会問題となりようやく救済制度で認められつつあります。平成18年にアスベストの立入りを特勤手当に追加したように、これまでは現場立入りの危険性を認めています。夏場・冬場に関係なく現場指導があります。廃止の根拠を「他府県の8割」にしていますが、業務の危険性についてはどのように説明されるのでしょうか。納得できません。

2500人が行動

3・18大阪総行動



JR西日本本社前包囲行動

今春闘の最大のヤマ場を迎えた3月18日、大阪春闘共闘・大阪労連は、「労働者派遣法の抜本改正を行え」「全国一律最低賃金1000円を実現せよ」など、労働者と国民の要求を掲げ、大阪総行動を実施しました。

早朝から府下各地の駅頭での宣伝行動、時限ストライキや職場前での決起集会などが行われ、昼休みはランチタイムデモ行進が大阪市内4コースで大阪市役所へ向かって行われました。

扇町公園での春闘総決起集会には、ナースウェーブ行動に参加していた医療労働者、JRの職場で働く多くの国労組合員が合流し、1100人が参加しました。

集会のあいさつにたった大阪労連の川辺和宏議長は「大企業はこの10年間で200兆円を超える内部留保をため込んだ。労働者の賃上げ、中小零細企業の営業をまもるために還元せよ。この春闘を国民の暮らしと営業をまもる春闘にしよう」と呼びかけました。

デモ行進後、JR西日本本社前で包囲行動が行われ、JR採用差別事件の解決を訴えました。大阪総行動にはのべ2500人の組合員が参加しました。



市役所前での宣伝

5時から、大阪自治労連提起で大阪市の非常勤保育士雇止め反対の宣伝行動が市役所前で行われ、府職労も合流して訴えました。

10春闘

国民の暮らしと営業まもろう

貧困なくせ 大企業は内部留保をはきだせ



「貧困なくせ、生活危機突破府民大集会」が3月21日、大阪市北区の扇町公園で開催されました。黄砂が空を覆うあいにくの空模様でしたが、4000人を超える労働者、府民が参加し、集会后デモ行進が行われました。府職労から153人が参加しました。主催は、国民大運動大阪実行委員会です。

主催者を代表してあいさつにたった大阪労連の川辺和宏議長は「大企業の内部留保の社会的還元、巨額の軍事予算を国民の経済に回すという二つの聖域に踏み込む大運動を続けていきましょう」と呼びかけました。

反貧困キャラバン実行委員会の普門大輔弁護士が連帯のあいさつ、日本共産党の山下芳生参院議員から国会情勢の報告が行われました。

また、保育、医療現場など各分野の4人から現場の実態と運動を取り組む決意表明があり、集会アピールを大きな拍手と歓声で採択した後、2コースにわかれデモ行進を行い、「軍事費削れ！大企業は社会的責任果たせ！」と怒りのシュプレヒコールを響かせました。



3・21府民大集会

大企業は社会的責任を果たせ！

労働者、府民4000人集う